

令和2年度市税等の収納実績について

総務部納税課

1 令和2年度の市税等収納実績の概要

令和2年度の市税の収入額は、前年度に一時的な要因で増加した法人市民税の法人税割額の減少に加え、新型コロナウイルス感染症に係る徴収猶予の特例に基づく猶予許可額の繰越額が、法人市民税、固定資産税を中心に1億2千万円余あったことから、市税全体収入額では前年より8億9,700万円余の減収となりました。市税合計の収納率は98.4パーセントで、昨年度から1パーセントの減となりました。

また、国民健康保険税については、被保険者数の減少やコロナの影響により収入が減少した方に対する減免等があり、収入額が6,400万円余減少しましたが、収納率は前年と同じ96.3パーセントでした。

コロナ禍による影響下で収納率の水準を維持できたことは、多くの市民の皆様々に納期内納付を実践いただいたことによるものであり、これに感謝するとともに、市としても引き続き適切な収納対策に努めていきます。

2 市税等の税目別収納実績

(1) 市税

ア 合計収入額 13,123,343千円 (前年度との比較 △897,076千円 △ 6.40%)

イ 税目別収入額の前年度対比

(ア) 増収

固定資産税(現年度分)	17,792千円	0.32%
都市計画税(現年度分)	1,434千円	0.21%
軽自動車税(現年度分)	10,406千円	2.87%(経年重課、新税率車両の増加等)
軽自動車税環境性能割(現年度分)	13,487千円	277.80%(前年は実質4か月分⇒1年分)

(イ) 減収

個人市民税(現年度分)	△ 27,058千円	△ 0.55%(個人所得の減等)
法人市民税(現年度分)	△ 847,751千円	△ 50.39%(法人税割額の減等)
国有資産等市町村交付金(現年度分)	△ 634千円	△ 1.57%
市たばこ税(現年度分)	△ 30,842千円	△ 4.92%
入湯税(現年度分)	△ 1,753千円	△ 51.53%
滞納繰越分計	△ 32,159千円	△ 51.71%

ウ 収納率

飯田市：現年度分 98.8% (12位)、滞納繰越分 37.3% (8位)、合計 98.4% (4位)

現年度分 (%)		滞納繰越分 (%)		合計 (%)	
飯山市	99.6	岡谷市	46.5	飯山市	98.8
須坂市	99.5	駒ヶ根市	44.4	千曲市	98.6
伊那市・安曇野市・塩尻市・長野市	99.3	長野市	44.0	長野市	
千曲市		99.2	千曲市	40.8	飯田市
19市平均	99.0	塩尻市	39.7	岡谷市	98.2
		19市平均	32.5	19市平均	97.6

(2) 国民健康保険税

ア 収入額 1,812,558千円 (前年度との比較 △64,095千円 △3.41%)

イ 収納率

飯田市：現年度分 98.2% (2位)、滞納繰越分 44.2% (3位)、合計 96.3% (2位)

現年度分 (%)		滞納繰越分 (%)		合計 (%)	
飯山市	99.2	千曲市	46.3	飯山市	97.0
飯田市	98.2	駒ヶ根市	46.0	飯田市	96.3
千曲市	97.8	飯田市	44.2	千曲市	95.1
伊那市	97.5	茅野市	41.8	駒ヶ根市	93.4
安曇野市	97.4	東御市	39.6	茅野市	92.3
19市平均	95.3	19市平均	26.7	19市平均	85.6

(参考) 徴収率改善ベスト5

徴収率改善(市税)		徴収率改善(国保)	
須坂市	+1.9	須坂市	+3.7
小諸市	+0.3	松本市	+2.9
塩尻市	+0.2	上田市・塩尻市	+2.0
佐久市・伊那市・安曇野市	+0.1	伊那市	+1.9
		安曇野市	+1.8

※飯田市

△1.0

± 0

3 新型コロナウイルス感染症に係る徴収猶予の特例の影響

(1) 徴収猶予の特例（5月末時点の県への報告）

許可件数： 述べ120件 （実数： 法人43社、個人25人、 計68件）

コロナ徴収猶予の特例		市県民税	法人市民税	固定資産税	軽自動車税	国保税
許可の合計金額	138,021,000円	1.49%	47.13%	50.17%	0.02%	1.19%
納税義務者のうち、法人 95.4%、個人 4.6%						
猶予許可の繰越額	121,756,500円	1.45%	51.38%	46.05%	0.00%	1.12%

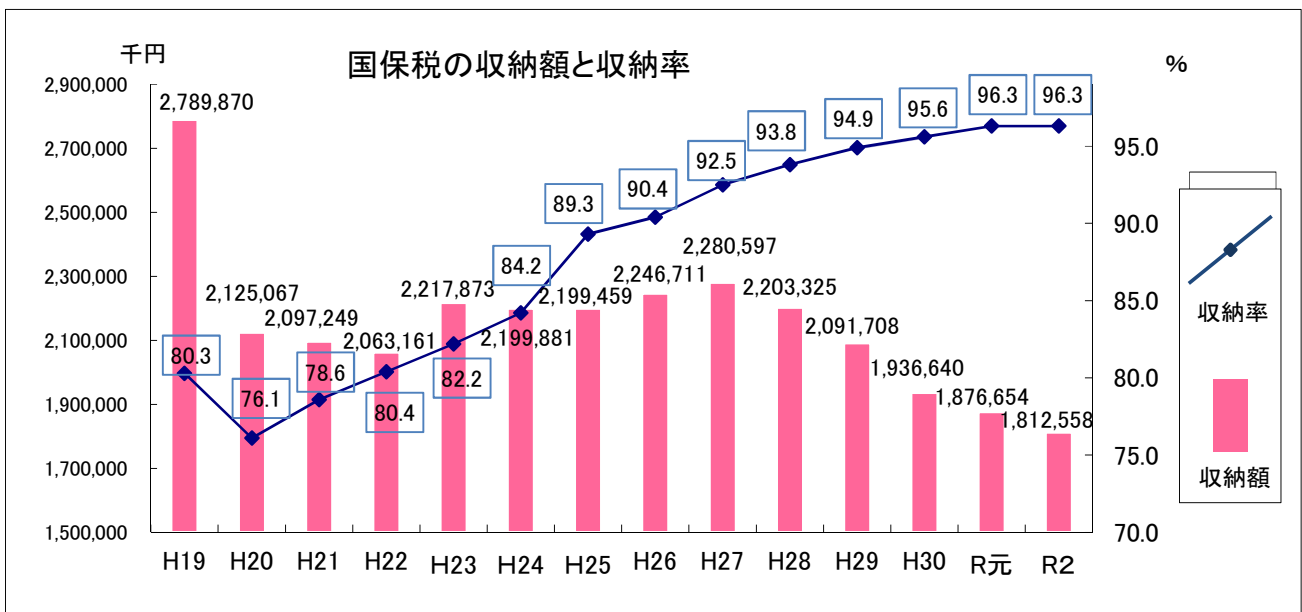
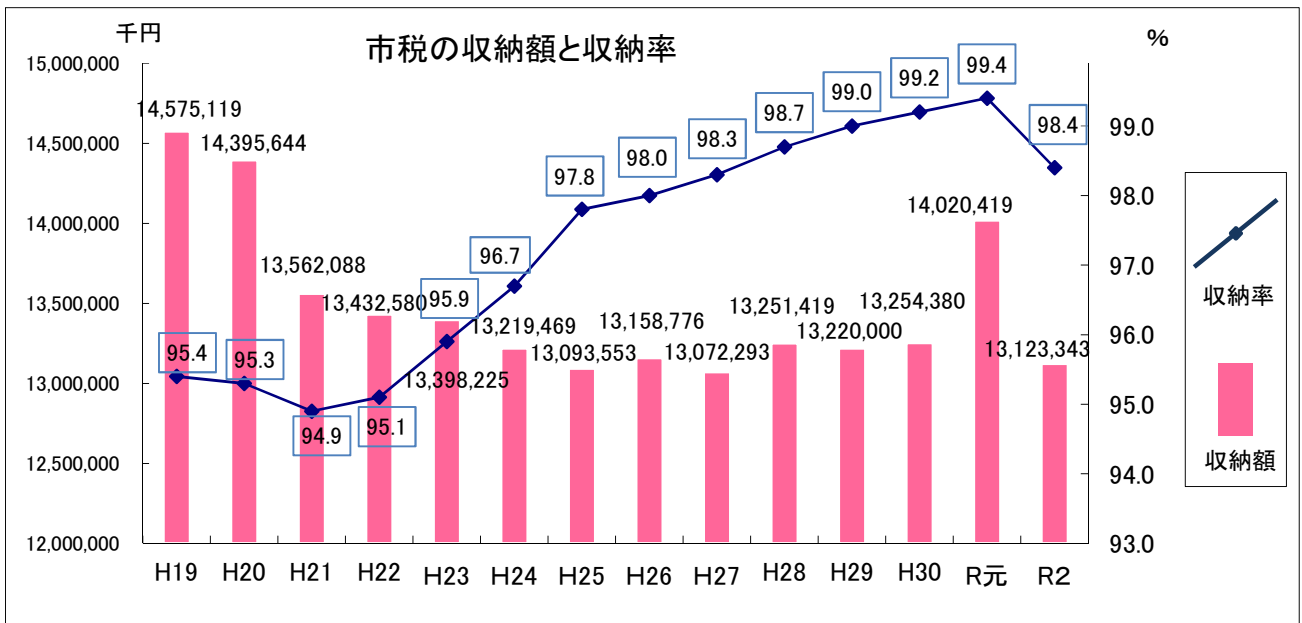
- ・ 納期限から1年後の日を猶予期間の終期として許可した件数は全体の84.7%となる。
- ・ 許可額のうち、市税のR2現年度分で令和3年度に繰り越した額は89.4%を占め、市税全体の現年度分調定額に対し0.9%にあたる。

(2) 飯田市のR2収納率について

- ・ 県内19市の市税現年度分の平均値は前年に比べ△0.3%であり、コロナの徴収猶予許可額の影響について、いくつかの市から状況を確認している。（現年度分は18市が前年比マイナス）
- ・ コロナの徴収猶予許可額のうち5月末までに納付された割合の低い（繰越の割合が高い）市は、現年度分の収納率に対する順位が下がる傾向が見られ、飯田市も繰越の割合が高かったことから、現年度分の順位が12位という結果になったと考えている。
- ・ 飯田市は、市税合計調定額に対して滞納繰越分調定額が占める割合が0.6%と19市で一番低い数値であり、市税全体の収納率を計算する際に優位に働き、合計収納率では4位になっている。
- ・ 国保税の合計収納率に対する県内19市の平均値は前年比+1.5%であり、飯田市は前年水準を維持することができた。

(3) 国保税のコロナの影響により収入が減少した方に対する減免件数

R元年度（2～3月）分 2,342,100円（93人）
R2年度（4～3月）分 17,475,300円（110人）



※ 市税、国保ともに、現年分と滞納繰越分の合計額と合計収納率

